

町田市農業振興計画推進委員会 議事要旨

【会議日時及び場所】

日時 2023年2月14日(火) 14時～16時

場所 町田市役所 3階 防災指令室2

【出席者】(敬称略)

■委員

木下 勇(委員長)、吉川 庄衛(副委員長)、中溝 章雄、新倉 敏和、斎藤 恵美子、福岡 ひとみ、松田 亜希子

■事務局

守田北部・農政担当部長、杉山農業振興課長、小澤担当係長、鬼塚主任、池澤主任、森田主任、井上主任、中山主事、鈴木主事、吉田主事

■傍聴者

0人

【資料】

次第

資料1 第4次町田市農業振興計画(改訂版) 進捗状況確認表(2022年度)

資料2 第4次町田市農業振興計画(改訂版) 進捗評価まとめ(2022年度)

資料3 町田市物価高騰対策農業者給付金チラシ

資料4 農さんぽマップ(2022年度まち☆ベジ BOOK 掲載予定内容抜粋)

【議事要旨】

- ・事務局から「第4次町田市農業振興計画(改訂版)」の進捗状況について説明し、2022年度の取り組みに関する評価案の確認を行った。
- ・質疑応答及び意見交換を行った。

1 開会

- ・経済観光部北部・農政担当部長から挨拶

2 委員・事務局紹介

- ・各委員から挨拶

3 「推進委員会」の概要について 事務局から説明

4 2022年度事業進捗確認及び評価について 事務局から説明

○基本目標1「意欲的農業者が安心して生産できる環境づくり」(事務局から説明)

○基本目標2「都市農地の保全と活用による多面的機能の発揮」(事務局から説明)

副委員長

認定農業者制度については、法制度的な課題も多く、現実的に推し進めることが難しい部分も理解できる。また、市内産農産物を販売している直売所等のPRには力を入れていってほしい。

農業次世代人材投資事業の実績が0名となってしまった要因について、事務局からの説明を求める。農業研修事業については、新規就農希望者が多く心強いと感じる。また、農業

後継者が農業を続けられる環境を整えることも非常に大切である。
農地あっせん事業については、法制度の改正も控えているため、今までの内容を継続して実施していけるような仕組みを考える必要があると思う。
課題としてもう1点挙げられるのは、都市農地貸借円滑化事業である。町田では現在約3.3haの貸借実績がある。法制度上どうしようもない部分でもあるが、貸し手は高齢の方がほとんどであり、長期的な貸借は困難なため、貸借農地での設備的な投資が難しいという現状がある。
全体的な評価として、色々な課題がある中で、×評価が無かった点は評価できる。△評価については、制度上の背景や様々な事情があつてのことだと思う。今後も計画の内容に沿って進めていってほしい。

委員長 現場と法制度上の乖離は大きな問題でもある。次の展開を検討していくためには、大学等の研究機関と連携を図ったりすることで、長期的な視点を持って進めて行くことが考えられる。また、現在は農外からの新規参入等も多いため、そういった方々と連携して地域で農業を活かしていくという視点も重要だと思う。

事務局 委員から質問のあつた農業次世代人材投資事業について、この事業は就農直後の新規就農者を対象としている補助金制度となっている。農業研修事業の修了者等を対象とした活用を見込んでおり、今年度1名申請希望者がいたが、新規就農直後であり、農作業等が多忙のため、一旦見送りしたいと辞退の申し出があつたためである。

委員 農業振興補助事業について、これまでは認定農業者以外も補助を受けることが出来ていたが、今後は補助対象を認定農業者と認定新規就農者に限定していく理由を説明してほしい。

事務局 認定農業者が減少傾向にあるという課題から、農業の経営計画を細かに立て、その上で農業を行っている人たちへの支援を重点化していきたいと考えているためである。これまでは補助率のところで差別化を図っていたが、今後については認定農業者の減少に歯止めをかけるためにも、このような形をとることとした。

委員 認定農業者の増加のためということではどうか。

事務局 その通りである。認定農業者を辞退する農業者の思いや意見を聞くと、認定農業者になることへのメリットの少なさが一つの問題であると感じており、そういった点の改善という視点も鑑みている。

委員 認定農業者が認定を受けるための手続きの中には収量等の算出も必要となるが、将来的に予測がつかない部分まで見据えて計画するというのは現実的に難しい所もある。

委員長 補助事業等の活用を考える上では、こうした書類等での手続きがどうしても出てしまうものである。それらを理解してもらえように市でも農業者をサポートしていきながらやっていってもらえると良いと思う。

- 委員 認定農業者の計画認定期間は3年なのか。
- 委員 5年間である。5年間で農業収入の向上等を計画しなければならなくなっており、高齢になるにつれて、農業経営を拡大していくような計画を立てるとするのが難しくなってくるということもある。
- 副委員長 労働時間の減少分を、設備投資などで合理化していくような計画を立てることになっているが、これにかかる裏付け等が現場サイドでは難しいという意見もある。
- 委員長 担い手についても多様な考え方があるため、制度内での柔軟な対応を考えていけると良い。
- 委員 堆肥流通促進事業について。どこの畜産農家が実施しているか、取引金額や堆肥の種類など、より深い周知があると良いと思う。
- 委員 目標を達成するためには、事業のPRが少ないような気がする。堆肥等の資材流通も立派な地産地消である。しっかりとPR活動を行って推進してほしい。都市農業においての堆肥作りは、周辺の住環境との調和の観点から難しい部分もあると思うが、できる範囲で推進していく努力は必要だと思う。
- 委員長 町田では堆肥のブランドの様なものはないのか。キャラクターのようなPRできる手段があると市民にも浸透しやすいと思う。周知活動などについては一筋縄では行かない部分も多いと思うが、少しずつでも計画のPDCAに反映していけると良い。基本目標1、2については事務局評価案で良いか。
- 委員一同 異議なし。

○基本目標3「立地を活かした地産地消の推進」(事務局から説明)

○基本目標4「多様な交流機会をきっかけとした市民の農に対する魅力の向上」(事務局から説明)

- 委員 今後中学校給食のセンター方式が開始されるとのことだが、農家が学校給食に野菜を出すことは、規格や品質等の決まりがあり、苦勞されているという話を聞いたことがある。納品時間が早いため、朝も早い。やりたくてもできないという思いがあるとも聞いた。今後についてはその点はどのように進んでいくのか。
- 事務局 中学校給食センターは2024年から稼働予定となっている。現在は地場産野菜を極力使用できるようにという方向性で調整を行っている。規格や納品方法については大きな課題と認識している。現時点では詳細についてはまだ決まっていない内容ではあるが、極力、農家の方々に負担が少なくなるような仕組みの構築に向けて調整中である。今回いただいたご意見も参考にさせていただく。

- 委員長 子どもの食育の面での話にはなるが、学校で子どもが野菜を実際に育てて収穫し、自分たちで育てた野菜を自分たちの手で調理して最後には食べる。そんな機会があると地元に対する思いや農への理解にもつながる。自身が学生に指導する中では、“食べる”ということだけでは、食育については足りない部分も大いにあるように感じる。市民農園などは、人と人とが繋がることが出来る場所でもあり、農的活動を通して様々な経験を得ることが出来る場所があると尚良い。
- 委員 買い物をする際に手に取りやすいところに地場産野菜があつて PR されていると良い。直売所等を外から見た時に、そこに自分のほしい野菜があるのかどうかが見えにくいので、どうしても多様な種類が揃っているスーパーを利用してしまふ。普段使いをするスーパーなどでも一角に地場産野菜のコーナーがあると、地産地消にも繋がっていくと思うが、現実的に難しいところもあるのか。
- 委員 JA の視点で言えば、町田市民約43万人の都市に対し、出荷農家の比率が少なく、地場産野菜の絶対量が少なくなってしまうという課題がある。量販店も地場産の野菜を求めている所も多いと思うが、直売所との出荷量の兼ね合いもあつて、現実的に難しくなっているところがある。
- 委員 JA のアグリハウスは市内に5店舗あるが、店舗によつても売り場の大きさや雰囲気、野菜の出荷量が異なっている。
- 委員 町田薬師池公園四季彩の杜の直売所では新規就農者が出品していたり、スーパーによつては地場産野菜の取扱いがあつたりと、町田は都内でも比較的地場産野菜の購入場所が多いように感じるが、少量多品目栽培が主流となつており、消費者ニーズに対する品揃えや利便性の観点では、十分とは言い切れないところもある。
- 委員長 資料4の「農さんぽマップ」はとてもよいと思う。このようなものが地域ごとにあると、より市民への周知にもつながると思う。また、消費者と繋がることで農業者が喜びややりがいを感じたりすることもあると思うので、農業経営の効率化というようなことだけでなく、人同士の出会いから生まれる“違う視点での価値”ということも大切にしていってほしい。
- 委員 都市農業における旬の野菜や、地場の野菜を食べようという PR・意識啓発を行っていくことも大切であると思う。
- 事務局 販売だけでなく、農的活動の紹介も含めて様々な形で PR を行っていきたいと思う。
- 委員長 資料2の進捗のまとめの部分になるが、農産物獣害防止対策事業については、目標値 82頭の捕獲に対し、90頭の実績見込みで○評価となっているが、◎評価でなくて良いか。
- 事務局 大幅に超えているわけではないため、○と考へている。

委員長 承知した。その他の評価についても、事務局案でお認めいただいたということによろしいか。

委員一同 異議なし。

5 計画に未記載の新規事業等に関するご報告 事務局より説明
・特段意見なし。

6 総評・その他

副委員長 報告のあったとおり、計画に対してそれなりの進捗と結果が出せたというのは、評価に値するのではないかと思う。今後については、事務局は勿論のこと、推進委員も一体となって、課題解決に向けて計画を推進していけると良いと感じる。

委員長 進捗評価で×がなかったというのは評価に値すると思う。△の評価になったものに関しては、法制度と現場の実情のギャップがあったり、様々な背景・事情があると思われる。また計画の中にはすぐに解決できる内容もあれば、長期的な視点で取り組むべき内容もあるため、別途プロジェクトを立てて研究・チャレンジしていくことも、場合によっては必要となるかもしれないと感じた。

7 閉会